

南京国际和平通讯



Nanjing International
Peace Communication

「南京國際平和通信」

主催：侵華日軍南京大屠殺遇難同胞紀念館

編集：南京大屠殺史及び國際平和研究院

12

Aug 2020 Issue 12



和平

Peace

2020 年第 12 号「南京国際平和通信」

ガイド：

- 記念館は、日本軍「慰安婦」制度の被害者に対する 2020 年の慰問活動を開始した。
- 記念館では、オンラインで消灯式が行われ、今年に逝去した生存者を追悼した。

2020 年 7 月 総第 12 号

編者による言葉

親愛なる読者へ：

6 月に別れを告げ、2020 年も既に前半期を過ぎた。新型コロナウイルスによる肺炎が全世界で勃発したため、記念館は臨時閉館から順次開館を経て、「予約＋防疫」の開館モデルを実施している。公式マイクロブログで、「オンラインで記念館を見学する」欄を立ち上げ、このシリーズでマイクロビデオを制作し掲載した。記念館再開後、当日の参観者数は制限されたが、三ヶ月間で 30 万人近くの参観者が来館し、秩序が整然と保たれた。

過去半年間で5人の生存者が我々から離れていき、そのうちの3人は南京大虐殺生存者で、2人は日本軍「慰安婦」制度の被害者である。記念館は先日、オンライン消灯式という形で追悼式を行った。

記念館は、日本軍「慰安婦」制度の被害者に対する2020年の慰問活動を開始した。

ヘッドラインニュース

記念館は日本軍「慰安婦」制度の被害者に対する 2020年の慰問活動を開始した

今年の6月初めに、記念館は日本軍「慰安婦」制度の被害者に対する2020年の慰問活動を開始した。

6月2日、記念館係は最初に江西省萍郷に到着し、日本軍「慰安婦」制度の被害者である劉蓉芳氏を慰問した。劉蓉芳氏の実姉である劉慈珍氏も日本軍「慰安婦」制度の被害者である。妹の体調があまりよくないと聞いて、93歳の劉慈珍氏は湖南省から江西省へ実妹を見舞いに来た。別れの時、劉蓉芳氏は、「お姉さん、行かないで」と言った。それは永遠の別れとなるからである。先日、劉蓉芳氏は病気で世を去った。享年91歳である。

6月11日、記念館係は広西省荔浦に駆けつけ、日本軍「慰

安婦」制度の被害者の故韋紹蘭氏の息子である羅善学氏を訪ね、
羅善学氏のご案内で韋紹蘭氏の墓に参った。

更に、記念館係は中国の湖南省や海南省などへ日本軍「慰安
婦」制度の被害者の慰問に赴く。



速報

オンライン消灯式が行われ
今年に逝去した生存者たちを追悼

過去半年間、私たちは南京大虐殺生存者である朱秀英氏、姚
秀英氏、蔣淑萍氏及び「慰安婦」制度の被害者である劉海魚氏、

卓天妹氏を追悼した。

疫病のため、我々は会場で消灯式を行うことができず、代わりにオンライン消灯式で亡くなった方々を追悼した。

1

南京大虐殺生存者である蔣淑萍氏

2020年2月2日に世を去った

享年 97 歳



「私の母、二番目の姉、私と父方の兄嫁の家族が、木造船に乗っていたとき、侵略者に道を遮られた。侵略者の一人が船体の側面に立って、手に持っている槍を振り上げ、槍の銃剣で船の苫の上から突き刺した。きらきらと光る銃剣が、私の目の前の二本の指のところに現れ、もう少し近ければ命を落とした。

日本軍「慰安婦」制度の被害者である卓天妹氏
2020年3月17日に海南省陵水県の自宅で世を去った
享年 96 歳



「水を汲んで、彼らにシャワーを浴びさせた。水を汲むのが少しでも遅れると、棍棒で腰を叩いた。片手で水桶を提げられなければ、殴られることもあった。」

南京大虐殺生存者である姚秀英氏

2020年4月12日に世を去った

享年 89 歳



「6歳の時に一度死んじゃった。死人の山から引きずられて、
80年以上生きてきたんだ。」

日本軍「慰安婦」制度の被害者である劉海魚氏

2020年4月14日に世を去った

享年 93 歳



南溝拠点に連行された後、劉海魚氏と他の3人の女性が日本兵に暴行された。数日後、劉海魚氏はもう昼なのか夜なのか区別がつかなくなった。もう一人の仲間がいつも気を失うまで虐待されてしまった。

日本軍が彼女に暴行を加えた時も、常に銃剣を彼女の胸元に突きつけ、彼女に村の誰が共産党かと言わせた。劉海魚氏が知らないと言ったら、日本軍は足で彼女を蹴り、刃のみねで彼女をたたき切り、彼女を徹底的に打ちのめしてから解放した。

南京大虐殺生存者である朱秀英氏

2020年4月22日に世を去った

享年 92 歳



1937年12月13日、朱秀英氏は9歳であった。日本兵が町に入った時、彼女の母親は彼女を連れて、元同義公染坊（染工場）だった泥馬巷16号棟に隠れた。彼女の母親はベッドの下に隠れていた。朱秀英氏も潜り込もうとした時、一人の日本兵が彼女の後頭部をつかみ、銃剣を彼女の首にかけて、彼女を殺そうとした。この場面をちょうど見た一人の老婦人が、朱秀英氏のために跪いて懇願し、日本兵はやっと朱秀英氏を放した。朱秀英氏の舅祖父は、日本軍によって泥馬巷16号棟で捕まって笄橋市で殺害された。

夏淑琴氏名誉毀損訴訟の代理弁護士

日本右翼と裁判で戦った談臻弁護士が世を去った



6月12日、南京大虐殺生存者のために日本の右翼と裁判で戦い、記念館から特別貢献賞を受賞した談臻弁護士は、肺塞栓症の発作のため、緊急処置の効果がなく、南京で逝去した。享年66歳である。

2000年から、談臻弁護士は南京大虐殺生存者である夏淑琴氏の依頼を受けて、彼女を代行し、日本展転社と右翼の作者である東中野修道氏を名誉毀損で起訴した。裁判の案件は9年近く続いた。2006年8月、南京市玄武区裁判所は夏淑琴氏勝訴の判決を下した。2007年11月2日、東京地裁は夏淑琴氏勝訴の判決を下した。2009年2月、日本最高裁判所は夏淑琴氏の名誉毀損事件に対して、最終審の判決を下した。これは、夏淑琴氏の名誉毀損事件が国内の裁判所と日本の全裁判所の勝訴を得たという意味である。

談臻氏は記者に、「弁護士として、一生のうちにこのような裁判に携わることができたのは、なんと幸運なのだろう」と話した。

疫病の期間中に「オンラインで記念館を見学する」シリーズ マイクロビデオが公開



2020年、新型コロナウイルスによる肺炎が我々の生活を変えた。みんなが家から出ることがなく記念館を見学できるように、当館は2020年3月9日から、「オンラインで記念館を見学する」シリーズのマイクロビデオを制作した。

「オンラインで記念館を見学する」シリーズのマイクロビデオは、南京大虐殺の間或いはこの歴史に関連する人物の話を中心に、記念館の重要な陳列品と文化財の裏話を補完している。今まで、第1期の計17回の「オンラインで記念館を見学する」シリーズのマイクロビデオは公開された。記念館の公式マイクロブログ、ウィーチャット、ティックトック、今日頭条などのニューメディアを通じて掲載された。

続いて、「オンラインで記念館を見学する」シリーズの第2期の撮影が計画され、20話を制作する予定で、主に記念館のシンボリックな建物と基本的な陳列品の物語を紹介する。毎週月曜日に1話を配信するので、ご期待ください。

記念館再開から三ヶ月

400人近くの外国人参観者が見学

今年上半期、新型コロナウイルスによる肺炎が全世界で勃発したため、記念館は一度一時的に閉館した。疫病が大幅に好転した後、記念館は3月21日に再開し、「予約+防疫」の開館モデルを実施している。

より良い、より安全な見学体験を提供するために、記念館は当日の参観者数を厳格に制限し、毎日消毒を徹底している。統計によると、6月21日までに、計288,101人の参観者が記念館を見学し、そのうち海外からの参観者は364人であった。

旅客の出身地の分析から見ると、外国人参観者数のトップは韓国で、2位は日本で、3位は米国であった。中国国内の参観者数のトップは安徽省で、2位は江蘇省で、3位は河南省であった。性別から見ると、男性参観者が58.9%を占めた。年齢や階層から見ると、18歳～35歳の若者が63.41%を占めた。